

学校だより 郷音ひびき

第108号
令和5年12月
発行
山崎西小学校



DEI & Bのじゅん!

特別支援担当 春名 晃至

これは「Diversity (多様性)」「Equity (公平性)」「Inclusion (包括・受容性)」「Belonging (帰属性、所属)」という、近年企業が推進している理念の頭文字をとったものです。

端的にいうと、誰もが個性の様々な人と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合いながら、一人一人がそれぞれの能力に応じた活躍ができる全員参加型の社会「共生社会(インクルーシブな社会)」を目指していきましょうということなのです。

さて、小学校でも、この「DEI & B」の考え方はありとあらゆる教育活動の土台になるべきものだと私は感じています。具体的には「インクルーシブ教育」という教育活動が、最も似通った考え方になると思います。

「インクルーシブ教育」の目的は、「全ての子どもが、学びたいことを、学びたい場所・環境で、学びたいように学べる」ということです。(注釈をつけるまでもありませんが、それは、何でもありの無法地帯のように、悪意を持った解釈ではありません。)この、「インクルーシブ教育」を考えたとき、真っ先に「障害」を持っている子どもたちを中心に据えた特別支援教育が思い浮かびますが、それは、「インクルーシブ教育」のごく一部であり、それが全てではありません。

「障害」が指すものによっても変わりますが、今日の日本のほぼすべての学級には、多かれ少なかれ学習や日々の生活の中に困り感を抱えている子が在籍しています。学習が苦手な子、運動が苦手な子、大勢の人混みが苦手な子、体の弱い子、言葉が苦手な子、発達

が早くて授業が退屈な子、気の合う友達がいな子、家のことを自分でしななければならない環境の子等々。すべての子たちを想定すると、もはや「障害」という言葉の定義はくくりきれない状況になっています。一人一人が違う個性を持っているのだから、一人一人を感じる困り感も、児童の数だけある・・・そんな一人一人の個性に合わせた教育を、そして、一人一人が大切にされる学校を目指していくことがインクルーシブ教育の目標です。

つまり、当たり前前の事ですが、子どもたちは、皆すべからくそこに居るのが当然なのです。これは、困難を抱えている子も一緒に、同じクラスで勉強できるように特別の支援をしていくこととは根本的に違います。全ての子どもがそこに居るのは当たり前、だからこそ一人一人に合わせた必要なサポートをしていくということなのです。

誰もが「学びたいことを、学びたい場所や環境で、学びたいように学べる」ようにソフト面とハード面の両方から整えていくことが大事であり、そうすることが、結局は共生社会を実現していく第一歩になっていくのだと思うています。

その取り組みの中で、私が一番大事にしたいなと思っていることは、「Belonging(帰属性、所属)」です。これは、他を排除するためのものではなく、例えば「同じ釜の飯を食った仲間」という言葉が表すとおり、様々な立場や環境を超えた「人と人とのつながり・かかわり」

みたいなものが、教育においても大前提となるのではないかと私は思っています。「支援の前に人としてのつきあいがある」という言葉は、今でも私の心に残っています。

こういう話をすると、「そんなことは十分理解しているが、それは理想論だ。」という声が聞こえてくる場合があります。

しかし、理想論だからこそ、目指すべき目標になり得るのだとも思います。目指すべき理想の姿だからこそ、現実を見て諦めるのではなく、理想に向かって、今何ができるかを考え続けられるのです。そして、できることを実行しようとするプロセスは、人生のありとあらゆる場面で一番大事なこともかもしれません。少し堅苦しいことを書きましたが、つまるところ、山崎西小学校の児童、教職員全員の笑顔があふれる場所になればいいなと日々願いながら、私は毎日山崎西小学校へ通っています。

【校長コラム】
師走を迎え、今年も残すはあと二週間ほどとなりました。運動会練習から始まった二期は、各学年体験学習、修学旅行・見学旅行・オープンスクール・教育講演会・音楽発表会・マラソン大会など、子どもたち一人ひとりが豊かな心をはぐくむ体験を通して充実した日々を過ごすことができました。

コロナ感染症が五類に移行したこともあり、子どもたちは喜んで地域に出向き、「人・もの・こと」から学ぶ体験活動に取り組みました。教科書や本で整理された知識を教室で学びますが、それだけでは時間と共に学びを忘れてしまいます。実際に、見て、聞いて、なるほどと納得したり、へえと驚嘆したり、すごいと感動したりする体験をすずでもっている知識と結びつけながら、知識を確実に自分のものとして身につけていきます。年末年始、地域や家庭において、学校では経験できない様々なことをできるだけたくさん体験し、大人になって活用できる豊かな知識技能を身につけてほしいと願っています。

12・1月の行事予定

【12月】

- 19日(火) 環境体験学習 3年生
PTA 新5・6年保護者会
- 20日(水) 給食最終日
- 21日(木) 午前中授業
- 22日(金) 第2学期終業式
- 25日(月) 冬季休業開始(～1月7日)

定時退勤日 毎週金曜日:15・22日

【1月】

- 5日(金) 教育研究大会
- 8日(月) 成人の日
- 9日(火) 第3学期始業式
- 10日(水) 午前中授業・発育測定
- 11日(木) 給食開始
- 12日(金) スキー教室 5・6年
- 17日(水) 地震防災訓練
- 20日(土) 宍粟市書き初め展
- 21日(日) (防災センター)
- 25日(木) PTA 本部役員会・理事会
- 26日(金) ファミリー読書

定時退勤日 毎週金曜日:5・12・19・26日



生活作文

マラソン大会

一年 〇〇 〇〇

れんしゅうしはじめたころは、あまり、はしれなかつたけど、れんしゅうをしていくとどんだんがいきよりはしれるようになりました。いえでも、がっこうでもれんしゅうをがんばりました。れんしゅうで百六十しゅうをたっせいしたときは、うれしかったです。とう日は、あさからすぐドキドキしてました。三いをよくひょうにしています。けっかはいいだったけど、さいごまではしりきれてよかったです。かんそうしゅうをもらったときはともうれしかったです。らいねんは三いをとりたいたです。れんしゅうもほんばんもいっしょうけんめいがんばったので、よかったです。

校内マラソン大会

二年 〇〇 〇〇

今日のもくひょうは、二番以内になることでした。

今日できたことは、もくひょうをたっせいしたこと。走る前は、めちやくちドキドキしていたけど、走っていると、きんちゅうしなくなりました。いっしゅんで走り終わってしまつたので、マラソン大会が終わるのが早すぎてびっくりしました。友だちも、ほかの学年の子たちもみんなあきらめずに走りきっていたのがすごいなと思いました。

ぼくは、おうえんをいっぱいしてもらえうれしかったから、三年生から上の学年にいっぱいおうえんできました。おうえんは、だいいじなんだなと思いました。

しろうしロードレースの一キロメートルのタイムは三分四十九秒で、今日は三分五十九秒だったからショックでした。だけど、あきらめずに、はじめから終わりまでせいっぱい走れたのがよかったです。お父さんにもお母さんにも、「もくひょうをたっせいできてうれしかったね。」

はじめてのマラソン大会だったけどよかったね。」

三年生になったら、もっといいタイムではやく走りたいから、これからもがんばります。

マラソン大会

三年 〇〇 〇〇

十二月一日にマラソン大会がありました。小学生になってはじめてのマラソン大会でした。スタートラインにならんでいる時は、ドキドキしたけれど、少し走りはじめると、しかりと前を見て走ることができました。道の所で、おうえんをしてくれていたお母さんも見るのができました。練習の時より、タイムもはやくなっていたのでうれしかったです。後からくるみんなのこともしかりとおうえんすることができました。家に帰ると、お父さんもほめてくれました。また来年もがんばりたいです。来年は今年よりじゅん位を上げたいです。

マラソン大会

四年 〇〇 〇〇

今日、校内マラソン大会がありました。今日まで、業間のかげ足や体育の時間にたくさん練習してきました。私の目標は、「最後まで走りきる」ことです。

コースに行くと、とても寒くて風が強かったです。一・二年生が走り終わって、いよいよ三・四年生になり、スタートしました。たくさんの方がいて、少しきんちゅうしました。でも、大きいうでをふって走ることができました。と中で、お母さんとおじいちゃんとおばあちゃんが、「がんばれー。」

と大きな声でおうえんしてくれて、もう一度がんばろうと思いました。折り返しをしたときは、とてもしんどかったです。でも、今まで練習してきたことをむだにはしたくなかったので、最後の一直線は残っている力をふりしぼって一生けん命走りました。五・六年生もおうえんしてくれてゴールの線をふみまし

た。はあはあ息が上がってしんどかったです。先生に紙をもらい、見てみると「9」と書いてありました。十位までに入れると思っていなかったのでもううれしかったです。自分の「最後まで走りきる」という目標も達成して、十位以内にも入ることができてとてもうれしかったです。そして、もう一度、あきらめずに最後まで練習してよかったです。なと感じました。しんどい自分をこえて、満足な結果が出て、とても楽しいマラソン大会でした。

マラソン大会

五年 〇〇 〇〇

今日のマラソン大会は「三位以内に入る」という目標を立てていどみました。去年までだったらすぐいやで「勉強してたい。」と思っていたのに今年は「はやくマラソン大会、始まらないかな。」と思っていました。そう思っていたので、開会式が終わって会場に向かうときはすぐ待ち遠しくてたまりませんでした。

目的地につきました。初めに五年生と六年生は一・二年生の応援をしました。最後の人が見えなくなつたと思つたら、すぐに一番の人が帰ってきました。それを見ると自分の走る時がだんだんと近づいてきたんだなと思いました。この時はまだウキウキしていました。でも自分の走り出す場所についたとたん、すぐきんちゅうしてきて足がプルプルしてききました。私は、スタートの位置が後ろの方だったので、目標を達成できるなんて思えませんでした。何人かの人を抜かして「行けるかな。」

と思つたけど、折り返しをして向かい風に打たれ、心が折れそうになりました。しかもゴールの近くになってきて足も疲れてスタートの時のように走れなかつたし、息も上がってもうあきらめようと思つてしまいました。でもゴールの目の前で最後の力をふりしぼり一人をぬかし見事十七位という順位でゴールしました。そして五・六年女子の三位になりました。目標を達成できずぐくうれしかったです。

す。今年は前回の時より、何倍もがんばれたと思います。ですが来年はもっと早くゴールできるように苦手なスタートダッシュを練習しようと思います。がんばります。

マラソン大会を振り返って

六年 〇〇 〇〇

今日のマラソン大会まで、私はかけ足を何度もがんばってきました。練習の時に他の人と競うことより、自分のペースで走つたほうが疲れにくいことがわかりました。はじめと比べてもすぐ速くなったことを実感しています。体育の授業でやった持久走のときには、最初に速く走りすぎて途中でリタイアしてしまつたけど、マラソン大会では気をつけようと思えました。

そして今日、スタート三十秒前の時はちゃんと走りきれぬか不安になつたけど「去年、ロードレースの二キロを走りきつたんだからきつと大丈夫だ。」と思いながらスタートしました。走っている時にお父さんが来てくれました。そして、ハチ工場の所にはおばあちゃんが「がんばれ。」

とずっと言ってくれていて、すぐうれしかったです。力をふりしぼってペースを上げていきました。そして一番うれしかったことは、一・二年生が応援してくれたことです。「〇〇ちゃんががんばれ！」

と聞いて応援してくれました。「ゴールすると、三位までに入れなかつたけど走りきれてうれしいという気持ちが強かったです。しんどかつたけど、少し楽しかったです。

今年、入賞はしなかつたけれど、一・五キロメートルを七分四十七秒という、今まで一番いい記録を出せました。すぐうれしいです。